

## パブリックコメント実施結果

『(仮称)藤沢市市政運営の総合指針2024(改定素案「第1章 基本方針」まで)』について、パブリックコメント(市民意見公募)を行いました。実施結果については、次のとおりです。

### 1 実施期間

令和2年10月26日(月)から11月25日(水)まで

### 2 提出状況

- (1) 提出者数 11人  
(2) 提出された意見の数 42件

### 3 提出された意見について

#### (1) 意見の内訳

区分	分類	件数	割合
はじめに	藤沢市の現状と見通し	4	9.5%
基本方針	策定の背景と意義	2	4.8%
	長期的な視点	1	2.4%
	まちづくりコンセプト	7	16.7%
	基本目標1 安全な暮らしを守る	3	7.1%
	基本目標2 文化・スポーツを盛んにする	2	4.8%
	基本目標3 自然を守り豊かな環境をつくる	9	21.4%
	基本目標4 子どもたちを守り育む	7	16.7%
	基本目標5 健康で安心な暮らしを支える	1	2.4%
	基本目標7 都市基盤を充実する	1	2.4%
	基本目標8 市民自治・地域づくりを進める	1	2.4%
その他	その他	4	9.5%
合計		42	100.0%

※端数処理の都合上、構成比の合計が100%にならない場合があります

(2) 意見の内容

No.	分類	意見の概要
1	藤沢市の 現状と特性	<p>2 ページで人口減少を阻止することに重きを置くのではなく、人口が減少していく前提で対応できる運営を考えるべき。</p> <p>子育て世代の確保が重要という表現だと、都市間で子育て世代を奪い合い、それに勝つことが大事で、藤沢市さえ勝ち残れば良いと言っているように感じる。人口減少と医療機関、店舗などの撤退が必ずしも”悪”循環とは言えない。空いた土地を利用した新たな産業やコミュニティが創生される等の良い面をも秘めていると思う。</p>
2	藤沢市の 現状と特性	<p>3 ページの公共施設の整備・再整備について具体的な数値が記載されていない。高度経済成長期につくられた施設の更新費用であれば、年度毎に費用の予測計算ができると思うので、数値も提示すべき。あわせて、過去の歳入出推移の図だけでなく、未来の再整備に必要な経費の年度毎の予定額も図にして見せるべき。</p>
3	藤沢市の 現状と特性	<p>5 ページの藤沢市都市マスタープランと総合指針素案との関連が理解できない。このプランの見直しも同時に行われるべき。</p>
4	藤沢市の 現状と特性	<p>5 ページの「緑地空間のネットワーク化」とは何か。あまり見慣れない表現なので、注釈等で説明を記載すべき。</p>
5	策定の背景 と意義	<p>新たな総合指針では、これまでの取組をさらに発展させ、「脱炭素社会」への転換点として重要と考える。20年先を見据えた基本方針としては、これまでの取組の視点として温暖化対策は単なる気候変動ではなく「気候危機」・SDGs・アフターコロナ（ウィズコロナ）の3つ視点が重要と考える。</p>
6	策定の背景 と意義	<p>8 ページの「新しい日常（ニューノーマル）が形成されつつあります。」の文章を「新しい日常（ニューノーマル）が形成されつつあり、気候危機・SDGs の視点が求められます。」としたらどうか。</p> <p>9 ページの「SDGs（持続可能な開発目標）の視点も取り入れ」を「SDGs（持続可能な開発目標）、アフターコロナ、気候危機の視点も取り入れ」としたらどうか。</p>

No.	分類	意見の概要
7	長期的な視点	<p>10ページの「SDGs（持続可能な開発目標）など新たな視点を加え」を「SDGs（持続可能な開発目標）、コロナ対策、気候非常事態などの新たな視点を加え」としたらどうか。</p> <p>11ページの「これらは、経済情勢や社会の変化にも柔軟に対応できるということにもつながっています。」の後に、「これらを維持し、持続的に発展させるには私たちにとって生存の基盤を揺るがす『気候危機』への対応が求められます。」を加えたらどうか。</p>
8	まちづくりコンセプト	<p>12ページの「SDGsの視点を取り入れ」を「SDGs、アフターコロナ及び気候危機の視点を取り入れ」にしたらどうか。</p> <p>また、まちづくりコンセプト1に以下2点を追加したらどうか。</p> <p>「○気候危機の視点から「実質ゼロカーボン」をめざす取組をします。」</p> <p>「○コロナ対策として「アフターコロナ・ウィズコロナ」に対応する取組を行います。」</p> <p>さらに、まちづくりコンセプト2に以下を追加したらどうか。</p> <p>「○技術革新を活用し、積極的に再エネ・省エネの普及に取り組みます。」</p>
9	まちづくりコンセプト	<p>12ページのサステナブル藤沢の「緑の豊かさ」について。森林の維持管理に対する補助金の拡充や農業後継者の斡旋など森林や農地を宅地開発せずに残す対策を基本目標に記載すべき。</p>
10	まちづくりコンセプト	<p>3つのまちづくりコンセプトの位置付け、基本目標との関係が理解できないので明確に記載してもらいたい。</p> <p>また、「スマート藤沢」の内容は手段である点に違和感がある。</p>
11	まちづくりコンセプト	<p>「サステナブル」「スマート」「インクルーシブ」という言葉を並べている時点で、一人も取り残さない市政とは程遠い気がする。</p>
12	まちづくりコンセプト	<p>スマート藤沢が心配。5Gなど電磁波が安心安全とは対極にある。藤沢は海・川・自然をアピールし、人工的な怖さのないまちになることを願う。</p>

No.	分類	意見の概要
13	まちづくり コンセプト	<p>めざす都市像が漢字と平仮名なのに、まちづくりコンセプトがカタカナ英語で違和感がある。</p> <p>また、「新しい日常(ニューノーマル)」や「シビックプライド(郷土への愛着と誇り)」のようにカタカナ英語と日本語を両方記載しているが、カタカナ英語は分かりづらいので日本語表記だけでよい。</p>
14	まちづくり コンセプト	<p>サステナブル藤沢の中で、『今のままのやり方では、長期的視点から見て持続可能性に課題のある事業は、大胆に見直しを進めます。』とあるが、市民の福祉政策が大幅に削減される可能性があるため、『不用不急の大型事業などを大胆に見直し、市民の暮らし中心、福祉中心の事業を充実して、持続可能な元気なまちを築きます。』に修正し、福祉を充実させ暮らしやすさ、持続可能な元気なまちを実現すべき。</p>
15	基本目標 1 安全な暮らしを守る	<p>藤沢市の目指す姿として、激甚化する風水害、都市災害への総合的な取組の強化等の表記があるが「災害への対策強化」の意味合いのみが強く感じられる。今後「気候危機」による新たな感染症等の脅威も危惧されるため、「気候変動」又は「気候危機」の言葉と具体的な対策を表記すべき。もしくは、激甚化・頻発化する自然災害は「気候変動」が理由で、今後より一層ひどくなる可能性がある旨を明示すべき。</p>
16	基本目標 1 安全な暮らしを守る	<p>基本目標 1 の【長期課題】に以下を追加したらどうか。</p> <p>「○温室効果ガス排出量の実質ゼロをめざし、新しい環境基本計画及び実行計画を策定し、その推進体制として、全てのステークホルダー（市民・事業者・NPO 法人など・大学・行政）の協働と連携により計画の推進を図るとともに、そのためのさまざまな参加の機会を設け、各主体が一体となって推進を図る体制を作ります。」</p>

No.	分類	意見の概要
17	基本目標 1 安全な暮らしを守る	新型コロナウイルス感染症対策はこれから先も必要と思うので、検査体制の強化、安心安全となるための補償も入れていただきたい。
18	基本目標 2 文化・スポーツを盛んにする	文化スポーツ分野では、文化都市ふじさわにふさわしい博物館や美術館などの施設整備を積極的に行って欲しい。
19	基本目標 2 文化・スポーツを盛んにする	「宿場町」の記載がされ、「継承地区」や「ガイドライン」が制定されたが、現実には道を歩いても宿場町の雰囲気はなく、長く住んでいる住民も地区の歴史を知らない状況である。宿場町についての地域の取組を育てる観点から市各機関から具体的支援をしていただきたい。
20	基本目標 3 自然を守り豊かな環境をつくる	基本目標 3 の【長期課題】に以下を追加したらどうか。 「〇気候危機への対策として、省エネと再エネを両輪として、2050年までに温室効果ガス排出量の実質ゼロをめざすために2030年、2040年までの目標を明確にします。」
21	基本目標 3 自然を守り豊かな環境をつくる	「二酸化炭素排出実質ゼロに向け」とあるが、目指す姿が抽象的である。「2040年までの二酸化炭素排出実質削減目標」の具体的な数値を入れるべき。 また、2050年二酸化炭素排出実質ゼロという国の方針を長期課題内に事実として明記すべき。 豊かな環境をつくるためにも、再生可能エネルギーの地産地消に一層力を入れてもらいたい。
22	基本目標 3 自然を守り豊かな環境をつくる	地球温暖化対策については、もっと具体的に目標を決めていただきたい。

No.	分類	意見の概要
23	基本目標 3 自然を守り 豊かな環境 をつくる	SDGs の視点は温暖化対策のためにもすぐやらなければならない事項であるため、もっと具体的な対策を記載してほしい。
24	基本目標 3 自然を守り 豊かな環境 をつくる	「二酸化炭素排出実質ゼロ」に積極的に取り組むことは賛成だが「気候非常事態」との関連を明確にしてもらいたい。 また、「各地でのクリーン活動」や「市民との協働による環境美化」には、河川の美化など作業の安全性の観点から制限があり、市民活動だけでなく、市の役割を明確にするとともに「開発」による自然環境破壊について触れるべき。
25	基本目標 3 自然を守り 豊かな環境 をつくる	一部の技術者で検討されている CO2 の地下貯蔵のような、循環しない持続可能性に反するような対応は行わず、循環型の再生可能エネルギーによる目標実現をしてほしい。 あわせて、他国や他の都市から CO2 吸収量を買取り付け替えるのではなく、市内二酸化炭素排出実質ゼロを目指してほしい。
26	基本目標 3 自然を守り 豊かな環境 をつくる	全ての市民に分かりやすい言葉で環境への意識をしっかりと変える政策をしてほしい。市役所、図書館、公園での自販機をやめ、給水スポットを設置するなど、レジ袋同様、市民の意識を変える取組をしてほしい。
27	基本目標 3 自然を守り 豊かな環境 をつくる	藤沢市が愛される理由は環境の良さもあるので、その部分を育みながら次世代へつなげていきたいが、必要性の感じられない広範囲の伐採には失望しかない。藤沢市歌に象徴される松並木はもうない。市はどうしたいのか。
28	基本目標 3 自然を守り 豊かな環境 をつくる	マイクロプラスチックとなるような製品を使用しない（させない）取組も必要ではないか（人工芝から天然芝に張り替える際の補助金、プラスチック加工工場で粉塵が飛ばないように集塵機を導入する際の補助金など）。

No.	分類	意見の概要
29	基本目標 4 子どもたち を守り育む	気候危機対策に緊急性を感じており、「気候変動」による影響を一番強く受ける子どもたちに対して「気候変動」の教育を行うことを明示してほしい。
30	基本目標 4 子どもたち を守り育む	未来の藤沢を担う子どもたちを育てるため、国任せにせず、教師数の確保や学校を整備して少人数学級によるゆとりある教育を実現してもらいたい。
31	基本目標 4 子どもたち を守り育む	市(教育委員会)がやるべき少人数学級の取組には言及がない。市の計画なので、公的な事業としても基本目標に記載されるべき。
32	基本目標 4 子どもたち を守り育む	学校の授業で全員が電子機器を使用することが必要なのか。子どもや学生の健康への影響が懸念される。
33	基本目標 4 子どもたち を守り育む	自然の中で身体を自由に動かし、心身がたくましく育つ場がない中、教育機器の導入が進められるなど、発達のがみが生じており、子どもを取り巻く環境は悪くなる一方である。
34	基本目標 4 子どもたち を守り育む	オンライン学習では人と関わる時間が減少すると思われるので、社会性を身に付けることができるように取り組む必要があり、その旨の記述をすべき。  また、イジメや教師からの暴力、セクハラ等の被害から子どもたちを守る必要がある。子どもからの発信を待ったり、受け皿となる相談窓口だけでなく、常時来校を認めて毎日が授業参観のようなオープンな環境にする等、一歩進んだ課題意識・対策が必要であり、基本目標にも明記すべき。
35	基本目標 4 子どもたち を守り育む	少子化の要因について「将来の育児に対する不安や経済的な不安が根本にあると考えられます。」とあり、根本にある育児不安と経済的不安さえ取り除けば、誰しも結婚や出産を望むと言っているように感じられ、結婚しない生き方や子どもを求めない生き方、LGBTなどの多様な価値観を根本では否定していると捉えることのできる記載である。「将来の育児に対する不安や経済的な不安も少なからず影響していると考えられます。」に変更すべき。

No.	分類	意見の概要
36	基本目標 5 健康で安心 な暮らしを 支える	基本目標 5 の記載の大半が高齢者に対応したものとなっている。超高齢化社会を迎えるにあたっての計画としてはこれでよいが、対象はあくまでも市民全体であるべき、低所得者、障がい者、高感受性群対策などについても対象となるのではないかと。
37	基本目標 7 都市基盤を 充実する	都市マスタープラン部分改定時に藤沢地区について藤沢本町駅周辺を追加補強してもらったが、今後藤沢本町駅周辺事業や付随する課題も考えられるので、都市拠点として「藤沢駅、藤沢本町駅周辺都市拠点」を掲げることを検討してほしい。
38	基本目標 8 市民自治・ 地域づくり を進める	2040年に向けた新しい藤沢市づくりとして町内会・自治会のあるべき姿と実践を行い、「めざす都市像（基本理念）」に「市と市民（町内会）と協働の藤沢市」を掲げたらどうか。 あわせて地区活動を行う「郷土づくり推進会議」事業計画見直しからの事業活動を検証し、今後の推進会議のあり方を考える時期でもあると思う。
39	その他	コロナ禍により市の歳入をはじめ、市民生活の前提が大きく変化しており、これまでの実績だけでは想定できない変化がある。現段階で指針を作成できるのか。作成した指針も状況が明らかになった段階で、再検討が必要になるのではないかと。
40	その他	大型店舗の開発ばかりが進み地域の小売店は生き残れていない。地域住民のつながりやその中で育つ子どもの生活は今や絶滅の一途でシステム開発が人の心を壊しているがそれらに全く目が向けられていない。
41	その他	家を建てるコンクリートのみ家ばかりで、土が子ども時代から遠ざかり、自然を感じないまま大人になることが心配。何%か土を残すという条例を作してほしい。
42	その他	コンポストを後々購入したいと思っても使えない場合が多々あるので、家を建てる時に土の割合を市に指定してもらい、規定を満たせば優遇されるなどのシステムがあるとよい。

以上